

第3節 県土の姿・とちぎデザイン

時代が大きく変わりつつある中で、県土づくりの基礎となる私達のくらしや産業、環境との共生のあり方なども変化してきています。

このような時代の潮流に的確に対応し、地域の資源を活かし豊かで安全な暮らしと活力ある産業を実現する県土づくりを進める必要があります。

また、豊かでかけがえのない自然環境を保全し、この美しい県土を次世代に継承していかなければなりません。

ここでは、「活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”」を実現するための県土づくりの基本方向と、“とちぎ”のデザインを示します。

1) 県土づくりの基本方向 ー国土交流拠点“とちぎ”ー

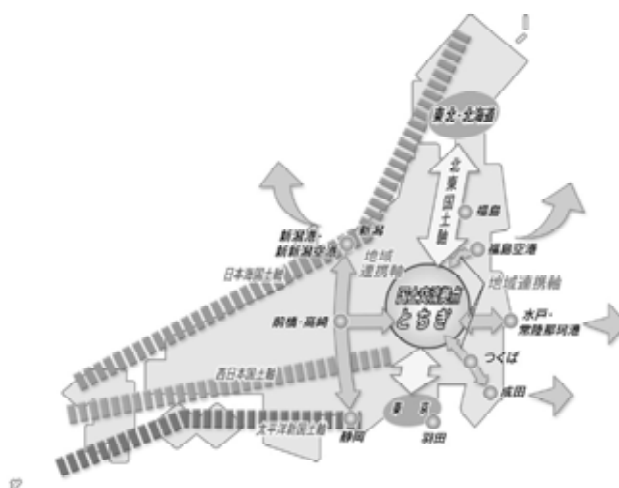
日本の国土における栃木県の位置は、首都東京に近接し、東北縦貫自動車道や東北新幹線などが東京から本県を貫いて東北地方・北海道に向かっており、多様で広域的な交流が行われ、日本の国土軸のひとつである北東国土軸が形成されています。また、東西方向においても、首都圏の一翼を担う北関東の各都市を中心とした地域間連携が進められており、今後は、北関東自動車道の整備が進むことにより、東京圏との連携に加え東西方向の連携が一層強化されると考えられます。

本県は、このような交流・連携の大きな軸の交差部分に位置しており、交差することによる相乗的な効果が見込まれる発展可能性を有しています。

これらの交通基盤を他の高速交通ネットワークと一体的に利用することで、さらに広域的な交流・連携を発展させ、空港や港湾などを介し、“とちぎ”の人・物・情報の交流を全国、世界に広げることが可能となります。

この恵まれた条件の中で、本県が持つ特色ある地域資源を活かした県土づくりを行うことにより、様々なスケールでの交流・連携の成果を、県土の発展と県民生活の質的向上に結び付けることが県土づくりの基本方向となります。

そのために、地域間の交流・連携の基盤（コリドールネットワーク）を強化・活用し、持続可能で自立・安定した地域づくりを進め、国内はもとより世界を視野にいたれたあらゆる分野での交流の拠点としての「国土交流拠点“とちぎ”」を目指していきます。



〔図 「国土交流拠点“とちぎ”」の概念図〕

2) “とちぎ” のデザイン

県土づくりの基本方向である「国土交流拠点“とちぎ”」の実現を目指し、コリドールネットワークを基本として、地域の特色を活かした県土づくりと県外に広がる交流についてのデザインを描いていきます。

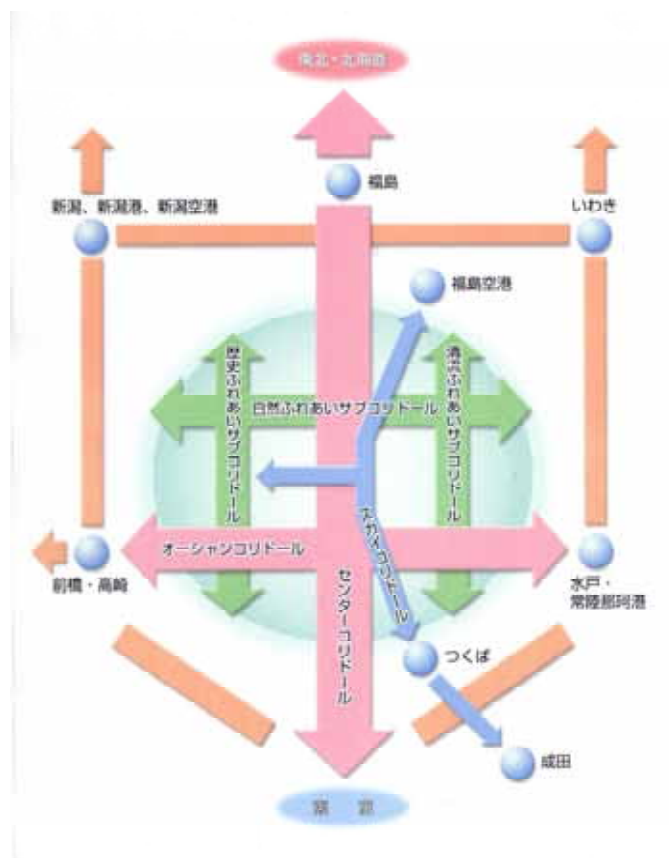
コリドールネットワークの強化

本県では、交通基盤等を軸に、人、物、情報、技術、産業、文化などが活発に交流し、これらを通して有機的な連携が図られる地域の連なりを“コリドール”と呼び、そのネットワークの形成を進めてきました。

コリドールネットワークは、3つのコリドール（センターコリドール、オーシャンコリドール、スカイコリドール）と3つのサブコリドールから構成され、これらのコリドールが県内で縦横にネットワークを形成することにより、県内の各地域の交流・連携が図られ、さらに全国との結びつきの基盤となります。

これらのコリドールネットワークを強化・活用することにより、県内各地域間の交流・連携が一層展開するとともに、全国や世界との交流・連携が進展し、「国土交流拠点“とちぎ”」としての本県の発展が可能になります。

〔図 コリドールネットワークの概念図〕



【3つのコリドール】 ～全国や世界との連なり～

- センターコリドール：東京圏から東北地域に連なる広域圏を形成する国土の主要な連なり
- オーシャンコリドール：太平洋と日本海に連なる広域圏を形成する連なりであり、国際貿易港を通じて世界につながる産業や文化の交流が展開
- スカイコリドール：成田（新東京国際空港）つくば、宇都宮、日光が連結され、さらに福島空港へ結ばれる連なりであり、国際的な観光、文化、科学技術などの交流が展開

【3つのサブコリドール】 ～コリドールを連結する地域の連なり～

- 自然ふれあいサブコリドール：本県北部を中心に茨城県北部と群馬県北部を結ぶ連なり
豊かな自然、歴史、文化とのふれあいを通じた交流が展開
- 歴史ふれあいサブコリドール：本県西部を中心に東京圏から会津を結ぶ連なり
歴史、伝統、芸術などを活かした交流が展開
- 清流ふれあいサブコリドール：本県東部を中心に福島県、茨城県の県際地域を結ぶ連なり
那珂川沿川地域の自然、歴史、文化を活かした交流が展開

特色ある地域づくりと交流・連携

「国土交流拠点“とちぎ”」として県土の発展と県民生活の質的向上を図るために、県内各地域が地域の持つ資源を活かして特色ある地域づくりを進め、それぞれの魅力と活力を高めるとともに、機能分担と相互補完による都市的サービスの発展を図り、持続可能で自立・安定した地域社会の形成を目指します。

さらに、それぞれの地域に共通する地域資源を活用することによる地域間の交流・連携を進め、単独の地域だけでは得られない新たな魅力や活力を創出することが可能となります。

これらの特色を活かした地域づくりが重層的に行われ、コリドールネットワークによって県内が縦横に結ばれることで、多彩な“とちぎ”が花開きます。

広域交流・連携

新たな時代の潮流の中で、経済のグローバル化による国境を越えた地域間競争の激化や、県域を越えた広域的な連携により対応していかなければならない課題などが生じています。

このような流れの中で、他県と境を接する県際地域では、隣接県および関係市町村との連携・協力のもと、公共施設の共同利用や生活、産業、文化などの交流が積み重ねられており、引き続き県際地域の連携を深めていきます。

また、コリドールネットワークの強化による県域を越えた交流を発展させ、他県との連携による広域的な課題の解決などを図っていきます。

さらに高速交通ネットワークにより本県と結びつけられる常陸那珂港、新潟港などの港湾や成田、羽田、福島などの空港を介し、“とちぎ”の魅力や活力を世界に向けて発信し、「国土交流拠点“とちぎ”」としての発展に取り組んでいきます。

〔図 広域的な本県の位置づけ〕



【５県連携】(福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県)

５県の一層の発展を図るため、社会基盤の有機的な連携とともに、人・物・情報・産業・文化などの連携・交流を促進する。

【首都圏整備計画】(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県)

首都圏整備法に基づき、首都圏の建設とその秩序ある発展を図るため策定される計画。「基本計画」、「整備計画」、「事業計画」から成る。基本計画において、栃木県は「首都圏における大環状連携軸」という地域連携軸の拠点になっている。

【２１世紀 FIT 構想】(県際地域市町村、福島県、茨城県、栃木県)

福島（F）・茨城（I）・栃木（T）３県の県際地域を中心として、各地域の特性を相互に生かし、連携・交流を深めることで、交通・物流・情報・産業・文化・芸術・観光・リゾートなど、広域的な交流圏と自然環境に調和した２１世紀にふさわしい新たな先導的拠点を形成しようとする構想。

【両毛広域都市圏総合整備事業】(両毛地域市町村、栃木県、群馬県)

地域のより深い交流と、一体となったまちづくりを推進するために、各種PR事業やイベント事業のほか、公共施設の相互利用の推進など、さまざまな事業を展開。